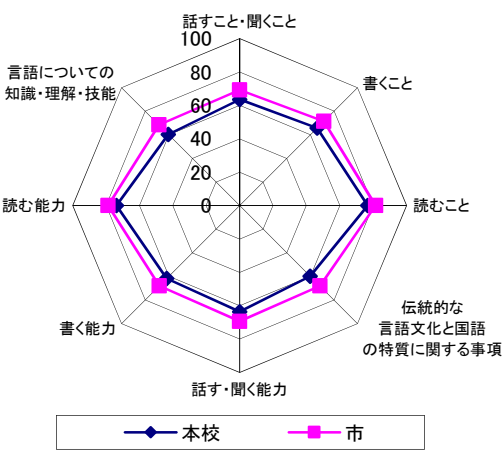


宇都宮市立富屋小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	63.6	69.3	73.4
	書くこと	65.7	71.3	74.6
	読むこと	76.7	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.9	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	63.6	69.3	73.4
	書く能力	61.7	68.1	71.7
	読む能力	73.8	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	60.3	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

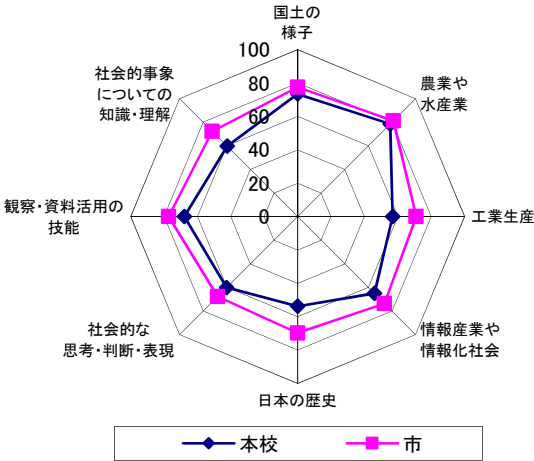
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「話し方の工夫を考えながら、話合いの内容を聞くこと」や「司会者の役割を理解して、計画的に話し合おうとすること」については、市の平均と同等であり、正答率も高かった。 ●「話し手の意図を考えながら、話合いの内容をまとめること」については、市の平均を下回り、正答率も低かった。	・話合い活動の中で、意見を聞き取ることはできているが、聞き取ったいくつかの内容を総合して理解したり、まとめたりする力は不十分である。小グループでの話合いを通して、司会者が意見を確認、要約しながら話合いを進めたり、発表者が話合いの最後にグループの意見をまとめて発表したりする活動を取り入れる。
書くこと	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「指定された長さで文章を書くこと」や「自分の意見を明らかにして文章を書くこと」については、市の平均と同等だった。 ●「理由や事例を挙げて文章を書くこと」については、市の平均を下回った。	・立場を明らかにして文章を書くことや、指定された条件を満たすことなどは、視写や作文の活動を積むことで力を付けつつある。今後は、意見に対する理由や根拠となる事例を実生活から見付けて書く活動などを取り入れ、読み手が納得する文章を書くことを意識させたい。
読むこと	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ○物語において、登場人物の心情や場面の描写を読み取ることについての正答率は、ほとんどの設問で8割を超えるなど、正答率が高かった。 ●説明文の「文章の内容を的確に読み取ること」についての正答率は、市の平均を下回ったものが多かった。	・物語では、情景描写や人物の行動描写から心情を読み取る内容を重視してきたが、今後も描写から心情、心情にともなう描写などについて考えさせる活動に取り組んでいく。 ・説明文では、段落やまとまりの内容理解と段落相互の関係について、構造的に読んだり、読み取った構造を図示したりする活動を取り入れて理解につなげていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「漢字を読む」ことについては、市の平均と同等だった。 ●「漢字を書く」ことや「同音異字」については、市の平均を大きく下回った。 ●「三字熟語」や「敬語」の理解については、市の平均を下回った。	・漢字練習を重ねてはいるが、身に付いていない状況がある。文章による漢字の使い方の練習や様々な熟語での練習など、練習方法に工夫が必要である。 ・敬語については、丁寧な話し言葉を使って話すようになってきてはいるが、敬語を使いこなすことはまだできていない。日常生活の中で時と場に応じた話し方をするよう、機会を捉えて指導していく。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	73.5	77.5	74.0
	農業や水産業	78.5	81.1	73.7
	工業生産	57.0	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	65.1	73.7	63.2
	日本の歴史	53.7	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	60.2	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	67.9	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	59.7	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

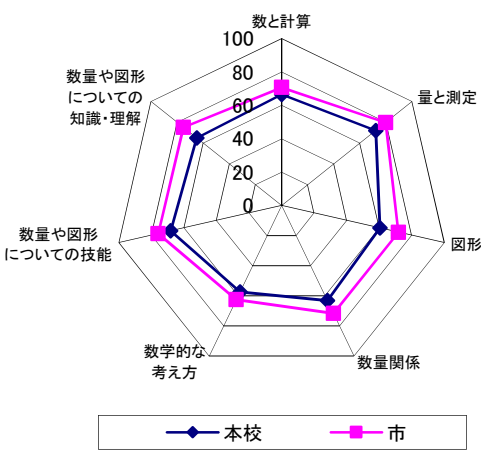
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	領域の平均正答率は、市の平均をやや下回った。 ○「日本の周囲の国の国旗」や「森林を守るための間伐」については、市の平均をやや上回った。 ●「雨温図と都市の位置」や「自然災害が起きた際の自助の大切さ」については、市の平均を大きく下回った。	・雨温図などを手掛かりに、日本各地の気候について復習したり、防災マップなどの資料を読んで考えをまとめたりする活動を取り入れる。
農業や水産業	領域の平均正答率は、市の平均をやや下回った。 ○「農業で働く人々がかかえる問題」や「日本の食糧生産がかかえる課題」について資料をもとに考えることは、市の平均と同等だった。 ●「日本の食糧自給率について、資料を読み取る」ことについては、市の平均を下回った。	・5学年の学習内容であるが、農業や水産業について定着まで至っていない。日本の食料生産や食料自給率、世界との関係などについて更に理解を深めることができるよう、6学年の学習内容「世界の中の日本」と関連させて資料を読み取り、考えさせるなど重点的な指導で復習を図りたい。
工業生産	領域の平均正答率は、市の平均を大きく下回った。 ●「化学工業の製品について理解している」については、正答率が低く、市の平均を大きく下回った。	・工業の基本的事項である、工業製品を工業の種類別に分類・整理することや、工業が発達している地域の特徴をつかむことなど、地域や地形と結びついた工業の発展について定着を図るようにする。
情報産業や情報化社会	領域の平均正答率は、市の平均を下回った。 ●「身の回りのメディアについて理解している」については、正答率が低く、市の平均を大きく下回った。	・現代の情報化社会において、情報メディアやネットワークについて正しく理解することは必要である。社会科の復習だけでなく、総合的な学習の時間、道徳など機会を捉えて情報や情報の読み取りについて考える活動を取り入れて、情報社会のモラルについての理解も深めていく。
日本の歴史	領域の平均正答率は、市の平均を大きく下回った。 ○歴史的な事象について、資料を読み取って答える設問では、市の平均と同等であった。 ●どの時代においても「知識・理解」に関する設問の正答率が低く、市の平均も大きく下回った。	・どの時代においても基本事項が習得されていないような状況がある。歴史を大きな流れの中で捉えられるよう、重要な事柄を再確認し、基礎的・基本的内容の定着を図るようにする。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.6	70.8	65.9
	量と測定	72.1	79.9	77.0
	図形	60.5	71.8	74.6
	数量関係	63.2	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	57.5	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	68.2	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	64.8	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

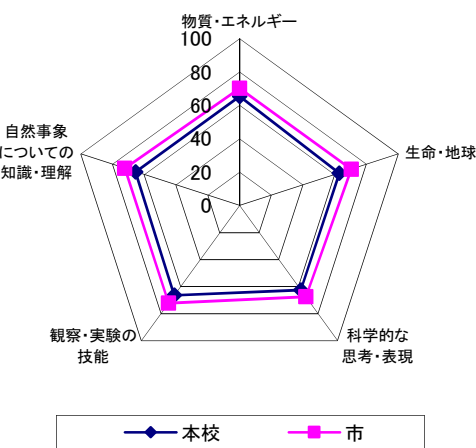
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○図を使い、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題については、市の平均を上回った。 ●「図を見て、小数倍の文章問題を解くための除法の式を選ぶこと」の問題と「分数の除法の文章問題を表した図を選ぶこと」の問題については、市の平均を大きく下回った。	・基本的な計算力は身に付いてきている。しかし、小数や分数の計算については、復習する必要がある。朝の学習や宿題で、小数や分数の計算を中心に組み立てることで、確実な定着を目指す。 ・図や数直線を読み取り、式を立てるなどの、情報を活用する力を育てるために、数量関係を図や数直線で表す活動や、友達の考えを読み取り説明する活動を取り入れていく。
量と測定	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「円と正方形を組み合わせた図形の面積を求める式から、その求め方を示した図を選ぶこと」の問題については、市の平均と同等だった。 ●単位量あたりの大きさ・速さの「答えが小数になる連続量の平均を求める」問題と「直方体を組み合わせた形の体積を求める」問題については、市の平均を大きく下回った。	・基本的な図形の面積や体積を求める力は身に付いてきている。しかし、ひし形の面積や直方体を組み合わせた体積を求める問題については定着していない。図形の縦や横、底辺や高さなど整理させ、正しく立式する力の定着を図るために、朝の学習や宿題などで復習する活動を取り入れていく。 ・平均の求め方について、朝の学習や宿題等で復習する活動を取り入れていく。
図形	領域の平均正答率は市の平均を大きく下回った。 ○「点対称な図形の対応する点を見つける」問題については、市の平均とほぼ同等だった。 ●「三角形の内角の和の法則を用いて、1つの外角を求める」問題と「5種類の線対称な図形の対象の軸の本数を選ぶ」問題については、市の平均を大きく下回った。	・三角形や四角形の基本的な内角の仕組みを復習する必要があるため、朝の活動等で繰り返し類似問題を取り入れていく。 ・線対称な図形や点対称な図形については復習が必要であるため、それぞれの図形の特徴の理解を深めるために、朝の学習を活用して、繰り返し確認していく。 ・多角形については、三角形を基にした構成を確かめ、基礎・基本的事項の復習を重点的に行う。
数量関係	領域の平均正答率は市の平均を大きく下回った。 ○「3つの資料から、問題に適した資料を選択する」問題については、市の平均とほぼ同等だった。 ●「XとYを用いた文字の式が表す場面を選ぶ」問題と「比例の関係をXとYを使って式に表す」問題については、市の平均を下回った。	・文字を使った式の解き方の復習をする必要がある。朝の学習等で、割合や比の基礎的な内容の復習を行う。また、記述式の問題を読み取る力を育てるために、日頃の授業で文章題を取り扱い、分かっている情報と問題部分に線を引かせるなどして、問題の意味を理解させる力を育てていく。 ・少人数指導教員や担任外の教職員等を活用し、個に応じた支援をしていきたい。

宇都宮市立富屋小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.4	70.3	69.0
	生命・地球	62.8	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	62.4	67.5	66.4
	観察・実験の技能	66.4	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	65.6	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「ふりこのきまり」や「電流のはたらき」の「電流の向きと電磁石の関係」については、市の平均正答率を上回った。 ●「物のとけ方」の質量保存の法則に関する問題と「水溶液の性質」については、市の平均正答率を下回った。	・領域の中にもよくできているものと、課題があるものが混在している。特に自然現象についての知識・理解に関する内容を重点的に指導し、各学年で学習した内容を再度復習させることで、基礎的内容の定着を図っていく。
生命・地球	領域の平均正答率は市の平均を下回った。 ○「動物のからだのつくりとはたらき」の「血液と体の各部分や肺の関係」については、市の平均正答率を上回った。 ●「植物のつくりとはたらき」・「生物とかんきょう」・「月と太陽」については、市の平均正答率を下回った。	・特に心臓の働きと腎臓の働きについての復習する必要がある。朝の学習等で再度取り上げ、重点的に指導して定着を図る。 ・小学校理科の総まとめとして、各学年で学習した内容を再度復習させ、過去の実験を振り返り、結果を基に考察する活動を取り入れ、科学的な思考力・表現力の育成に努める。